

## 丸岡いつこの市議会レポート



<http://maruoka.kgnet.gr.jp/>

# 横浜の省エネ・節電政策を提案!

9月に開かれた横浜市会第2回定例会一般質問で横浜市の姿勢を問いました

### ●市内小中学校の空調設備は省エネ・節電効果の高い機種を選択を

横浜市立小中学校494校中への空調設備の整備が進められ、すでに54校で設置が完了し、今年度は264校※で工事が完成する予定です。電気式・ガスヒートポンプ式(以下、ガス式)が導入されていますが、ガス式の冷暖房設備は、電気式と比較して、約9割の節電と、約3割の二酸化炭素削減が可能です。ランニングコスト・イニシャルコストともに電気式のものより有利となるケースが多くあり積極的にガス式を導入すべきです。来年度以降の導入方針について尋ねたところ、「経済性や機器の設置条件、CO<sub>2</sub>発生量などの点から、ガス式と電気式を比較検討した上で適切に導入を進める。」との答弁がありました。ガス式の空調設備は、ガスをエネルギーとして使うことで電気使用量が一定量に抑制されるので、夏季の電力ピークの緩和にも大きな役割を果たします。また、季節間の電力需要の変動が平準化されるなど、節電効果に期待ができます。

エネルギーを大量に消費する事業者でもある横浜市が、小中学校だけでなく市民利用施設などでも率先してすぐれた省エネルギー機器の導入を進めていくべきです。今後も省エネ・節電の効果が高まる選択を後押ししていきます。

### ●中小事業者への支援でさらなる省エネ・節電対策の普及、促進を

今年4月からは、東京電力管内で大口径電力需用者に対して17%の電気料金値上げが実施されており、横浜市の負担が20億円も増加することや、市内企業も含めると200億円の影響が危惧されると試算されていました。今後も、市が率先してトクする節電をすすめるとともに、市内の事業者にも同様の取組みを一層普及促進させることが求められます。

神奈川県が昨年10月に行なった県内事業所に対するアンケートでは、回答のあった200の事業所全てが節電の取組みを実施していることが報告されており、主な取組みとして、「照明の減灯」や「エアコンの設定温度の引き上げ・抑制運転」が挙げられました。しかし、照明のLED化に取り組んでいる事業所は19%に留まり、コスト面の課題からLED化は進んでいません。

市内中小企業に対し、省エネ機器導入のための融資制度はありますが、導入コストをかけずに空調器具や照明器具を更新しトクする節電ができるよう、リース方式による機器の設置を後押しするリース利子補給事業を創設する等の支援施策も有効だと考えます。スピード感を持って省エネ・節電対策に取り組めるように多様な制度の検討が必要です。



今年も、横浜ユニット連絡会から、2013年度予算に向けた提案書を副市長に提出し、丸岡いつこの市議のコーディネートにより横浜市子ども青少年局、健康福祉局の担当課と意見交換を行いました。

## 豊かな地域福祉政策を 実現に向けて市民政策提案

柳橋小夜子(ネット青葉)

まず、これまでの保育・子育て支援制度を大きく転換する「子ども子育て支援法」の成立を受け、あらためて児童虐待防止及び待機児童解消・多様な保育事業・一時預り補助事業・委託型家庭的保育・産前産後支援などの充実を求めました。

高齢者福祉施策のうち介護保険制度については、度重なる改正により生活援助サービスが縮小している実態を伝えるとともに、在宅を支える食事サービス事業の充実、介護の担い手を増やすしくみづくりや、地域包括支援センターの機能強化も提案しました。

NPOの移動サービス実施団体からは、横浜市の外出支援事業の見直しにあたって、ガイドボランティアのコーディネート機能の拡充や福祉有償運送のニーズに対応するサービスの必要性が提起されました。

また、防災対策についても地域防災計画の見直しに合わせ、災害時要援護者対応マニュアルを改定すること、要援護者支援の担い手として福祉事業者との防災ネットワークを構築し協定を結ぶなど、セーフティネット機能を高める提案がありました。

今後も福祉現場の皆さんとともに政策提案に取り組んでいきます。

\*横浜ユニット連絡会：横浜市内で活動する非営利・市民事業の126団体が参加

## ミニ太陽光発電システム 見て触って体験会

西島夏子(子ども未来プロジェクト青葉)

10月30日20名の参加者のもと山内地区センターで開催しました。

旧藤野町を拠点にさまざまな活動をしている人たちが3・11を機に始めた地域分散型エネルギーを広める活動の名称です。

ベランダやちよつとしたスペースで発電でき持ち運びも可能、電力会社とつながらない独立型の小さな太陽光発電システムを紹介してくださったのは、藤野電力の「電哲さん」こと小田嶋哲也さんです。藤野電力は電力会社ではなく、相模原市

ワークショップの前半は電哲さんたちが取り組むトランジションタウンのお話で、「脱依存」「レジリエンス(柔軟な底力)」「創造力」を柱にした新しい生き方、社会の在り方はとても魅力的な内容でした。

後半はミニ太陽光発電システムの組み立てです。50Wのソーラーパネルと各種機器を配線ですなげます。電気関係にうとい私たちには難解な部分もありましたが、完成した発電システムがすぐに電球の灯を明るく灯すと歓声があがりました。小さな発電システムですが、1日の発電量は約200W、ノートパソコンなら4〜6時間使えます。災害時に大活躍すること間違いなしです。

若林ともこ県議事務所設置してあるので、ぜひ見に行ってください!

